



福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 (略称: 横浜市社協)



「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています

特集

すべての人が 地域の一員と 感じられるまち

～オール中里北部地区のゆるやかな気づきあいをめざして～



福よこクイズプレゼント

お役立ち台所グッズ
エコ・ラップ&アクリルタワシ
→詳しくはp8で



中里北部地区「気づきの和連絡会」寺家ふるさと村 四季の家にて
(7月19日撮影)
→詳しくは特集で

もくじ

福祉の仕事 地域ケアプラザのコーディネーター..... p4

Let's try ボランティア 「本を読みたい、情報がほしい」
その気持ちにこたえる p5

市社協情報 第9回 よこはま地域福祉フォーラム p6

福祉よこはま最新号と
バックナンバー▶

福祉よこはま 検索



すべての人が

地域の一員と感じられるまち

なかざとほくぶ

～ オール中里北部地区のゆるやかな気づきあいをめざして～

「気づきの和連絡会」の取組

みんなが見守り、見守られるまちをつくりたい… 青葉区中里北部地区では、地区内の団体・組織がつながり、「気づき」の目を増やし、日々の暮らしの中での変化やいつもと違う様子などがあつた時に、気軽に地域ケアプラザ※1（以下、ケアプラザ）へ連絡ができるよう、「気づきの和連絡会」（以下、「気づきの和」）を定期的に開催しています。「気づきの和」では世代や活動分野を問わず集まった40人以上のメンバーが、さりげないやさしさで支えあい、一人も取り残されないまちづくりのために毎回さまざまなテーマで話しあい、取組報告や情報・意見交換を行っています。

※1 地域ケアプラザ… 4ページをご覧ください

この日は、LINEなどSNSによる情報のあり方について意見交換



「気づきの和連絡会」の様子

▲7月19日・寺家ふるさと村四季の家にて

「気づきの和連絡会」参加団体

地区社会福祉協議会

連合町内会

地域ケアプラザ

民生委員・児童委員

小中学校・PTA

郵便局

大学

新聞販売店

かもしだ 鴨志田地域
ケアプラザ

かもしだ 鴨志田郵便局

NPO法人

ボランティア団体

区役所

福祉事業所

区社会福祉協議会

「気づきの和」ポストは地域ケアプラザと、鴨志田郵便局にあります

地域ケアプラザが窓口になっています

「気づきの和」の活動を通して、つながりが広がっています

気づきエピソード 1

新聞店で認知症サポーター養成講座を開催。後日、配達に行きも帰りも同じ場所で座り込んでいた人を見かけた新聞配達の方がケアプラザに連絡をくれました。

気づきエピソード 2

中学校で「気づきの和」の活動を生徒に案内。後日「体調を崩した人を手助けするために車いすを貸してほしい」とケアプラザに中学生がやってきました。

「あらゆる世代の交流がさかんに行われ、さまざまな人の和が広がり、すべての住民が地域の一員と感じられるまち」をめざして、住民や団体が連携して取り組んでいる活動を紹介합니다。

横浜美術大学の学生による
「さりげない優しさで、
そっと触れてお互いを支えあう手」を
デザインしたロゴマーク



中里北部地区社会福祉協議会会長、
「気づきの和連絡会」代表
おくだ たえこ
奥田 妙子さん

取組が広がってうれしいです

「気づきの和」の発足当時は、成果が見えづらい活動を地域にどのように伝えたら良いのかということを考えていました。話しあいを重ねていく中で耳にするさまざまなエピソードを通じて、つながりが増えてきたことを実感しています。



NPO法人 森ノオト 事務局長
うつのみや なみこ
宇都宮 南海子さん

広報紙『ごきげん』を発行しています

どうやって活動を広げていくか話し合う中で、『ごきげん』の発行につながりました。「気づきの和」ポストは、心あたたまる話を書きとめてシェアするだけで、誰もが参加できるツールとなっています。これからもさまざまな人がゆったりとかかわる関係をつくっていくために、地域の情報を発信していきます。



紙面には

「気づきの和」ポストに投かんできる
「ごきげんカード」が印刷されています



中里北部連合町内会長、
横浜鴨志田郵便局長
とつかまさゆき
戸塚 昌行さん

小中学生から高齢者、 働く方も含めてみんなが当事者 ゆるやかな気づきあい 広がっています

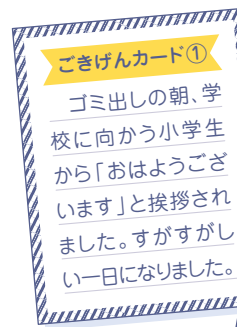
新聞販売店が広報紙の配布を手伝ってくれるようになってから「気づきの和」の存在をより知ってもらえるようになったと思います。普段から顔の見える関係性ができたことで、地域内にある大学の学生がマラソン大会やお祭りの運営側としても参加してくれるようになりました。誰にとっても暮らしやすいまちになっていく手ごたえを感じています。

けんしだい
日本体育大学 横浜・健志台キャンパス
けんしだいとうかつ にしむら
健志台統括 西村さん

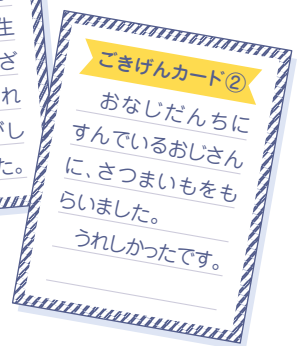
地域のイベントのお手伝いのほか、運動部や学生個人が地域の掃除など地域の一員としてできることを考え自主的に活動しています。

「気づきの和」 ポスト

地域で見つけた「ごきげんな話」「気づいたこと」などを投かんできるポストは地区内の2か所にあります。今後は他の場所にも設置を計画しています。



投かん



切り取り



「気づきの和」は、平成30年に当時の民生委員さんが今後の見守り活動について相談したいとケアプラザに声をかけてくれたことをきっかけに「問題が重症化する前に発見するためにはどうすれば良いのか」について話しあいの場を設けたことから始まりました。「気づきの和」をきっかけに、地域の活動がつながり、広がっていくと良いと思っています。

◀ 横浜市鴨志田地域ケアプラザ かもしだ まりこ
生活支援コーディネーター 鴨志田 真理子さん※2

※2 生活支援コーディネーターの仕事…4ページをご覧ください

気軽に立ち寄ってください

生活支援
コーディネーターの
かもしだ まりこ
鴨志田 真理子さん



かもしだ
鴨志田地域ケアプラザの
コーディネーター

地域活動交流
コーディネーターの
ささき くみこ
佐々木 久美子さん



高齢者、子ども、障害のある方など誰もが地域で
安心して暮らせるように、さまざまな取組を行っています

鴨志田 真理子さん

きっかけ 鴨志田地域ケアプラザが開所した際に地域活動交流サブコーディネーター※として働き始めました。現在は生活支援コーディネーターとして仕事をしています。子育てやPTAの経験が役立っていると感じています。

※地域活動交流コーディネーターを補佐する仕事

大事にしていること 支援の担い手・受け手という関係ではなく、地域の一員としての視点を忘れないようにつねに心がけています。地域で暮らす人や過ごす人が切れ目なく誰かとつながることができるように、時間をかけてゆっくりときっかけづくりをしています。

嬉しかったこと 地域の方から「自分がこれだと思った時は、自信を持って進むもの」と背中を押してもらいました。信頼関係を築いてきたからこそ、いただいた言葉だと思っています。

佐々木 久美子さん

きっかけ 特別養護老人ホームでボランティアをしていた時、ホーム職員からこの仕事を紹介され興味をもちました。幼児・児童教育、人と企業を結ぶ仕事をしてきた経験が活かしています。

心がけていること いつもいて話しかけやすい人、ささいなことでも相談できる身近な窓口のような存在でありたいです。来館者や地域の中の「つぶやき」を拾い「カタチ」にしていく仕事だと思います。積極的に声をかけたり、来館が減った方にはグループを通じた見守りをしたり、専門職につなげるなどつねに「アンテナ」をはりめぐらせています。

仕事の醍醐味 0歳から高齢者まですべての世代を対象に、体操・音楽・語学・畑仕事などさまざまな集まりや講座をたゆみなく企画しています。「一つひとつの活動」がきっかけで地域の人がつながっていくことが醍醐味だと思っています。

地域ケアプラザには…

高齢者が自分らしく地域で暮らし続けるために、多様な主体による生活支援・介護予防・社会参加の視点を持つ「生活支援コーディネーター」と、子どもや高齢者、障害者等、地域に暮らす全ての人たちが地域の一員として、自分らしく支えあって暮らせるように「地域活動交流コーディネーター」が配置されています。

地域ケアプラザ
については
こちらから
ご覧ください



横浜市鴨志田地域ケアプラザ(青葉区)

住み慣れた地域で誰もが健康で安心して生活できるよう、ボランティア支援、保健・福祉サービスなどを総合的に提供しています。



運営：社会福祉法人ふじ寿か会(横浜市指定管理施設) ホームページ

福祉人材に関する情報

かながわ福祉
人材センター



ホームページ▶

横浜市内の
介護人材
関連情報



ホームページ▶

広告

あなたも身近な「見守りの担い手」に！

例えば

- ◆ご近所どうして契約トラブルの情報共有
- ◆消費者被害で困っている人がいたら横浜市消費生活総合センターを案内

高齢者に多い消費者トラブル

- ①お試しのつもりが定期購入
- ②屋根や給湯器の点検商法
- ③有名人をかたる投資話



消費生活相談電話

TEL.045-845-6666
FAX.045-845-7720



横浜市消費生活総合センター

Let's try
ボランティア



「本を読みたい、情報がほしい」 その気持ちにこたえる

横浜市内では視覚に障害のある方に点字や声で情報を伝えるボランティアグループが活躍しています。文字を点字にして伝える「点訳ボランティア」や音声にして伝える「音声訳ボランティア」を知っていますか。

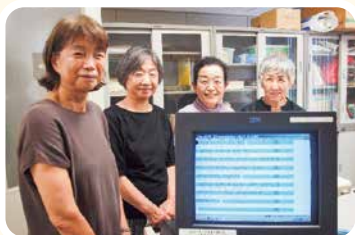
本を読みたい、情報を知りたい視覚障害者にとって点訳本や音声訳テープは情報を得るためのツールのひとつです。その「読みたい」「知りたい」気持ちにボランティアグループがこたえています。

作成に携わるボランティアの方たちは、「本好きの人の気持ちはみな一緒」「発声やアクセントひとつにも気をつかう」「内容をきちんと伝える工夫をするのが楽しい」と目を輝かせます。始めてみるとその奥深さにはまって長く続ける方が多いのですが、どのグループも担い手不足が課題です。

入門講座、研修や勉強の場の見学を通じて点訳・音声訳の魅力に触れてみませんか。

点訳ボランティア

視覚障害のある方から依頼を受けた本や、横浜市立盲特別支援学校で使う教材、図書室の蔵書の点訳などを行っています。文字だけでなく、図形などを点訳するグループもあります。



点訳した参考書を使っていた方から大学合格の連絡をもらった時は嬉しかったです

今回話を聞いたグループ

- 点訳グループ「やしの実」
- 点訳グループ「ばねの会」
- 理数点訳「インテグラル」

11月に**入門講座**を開催します。
ぜひご参加ください。

音声訳ボランティア

新聞記事や横浜市のイベント情報を毎月、音声データにして発行するほか、個別に依頼を受けて本や雑誌の音声訳を行ったり、対面朗読なども行っています。



音声訳をするなかでさまざまな本に出会えるのが楽しいです



今回話を聞いたグループ

- 横浜音声訳グループ「やまびこ」

研修会、勉強会、見学会、親睦会を行っています。
興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

【問合せ】yamabikoyokohama.2023@gmail.com

パソコン点訳入門講座(全5回)

基本的な点訳ルールを学び、点訳ソフトを利用して基礎から取り組みます。

日時 11月1日(金)、5日(火)、15日(金)、19日(火)、29日(金)いずれも10時~12時

会場 横浜市健康福祉総合センター内(中区桜木町1-1)

参加費 1,000円(教材費)

申込み締切り 10月15日(火)
※定員10名に達し次第、受付を終了します



詳細・お申込みはこちらから
横浜市ボラセン
ホームページ



横浜市ボランティアセンターより

横浜市内には市域・区域で活動する点訳・音声訳グループが数多くあります。

活動に興味・関心のある方は横浜市ボランティアセンターにお問い合わせください。

各区のボランティアセンター
(横浜市内18区 社会福祉協議会)は
こちら



この記事に関するお問合せはこちら

横浜市
ボランティアセンター
☎045-201-8620



第9回

よこはま地域福祉フォーラム

「一人ひとりが大切にされるまちへ」
～思いに寄り添い 認めあい 支えあう～

困りごとや生きづらさ、地域における「つながり」のあり方は日々多様化しています。その人らしい暮らしや思いに寄り添い、一人ひとりを大切にすることのできるまちになるように。私たちに何ができるのか、一緒に考えていきます。

後日
YouTubeによる
録画配信あり

日時 令和6年12月5日(木) 10時15分～15時45分

場所 関内ホール (中区住吉町4-42-1)

内容 午前 基調講演 「つながりの中で あたりまえに生きていく」

〈講師〉丹野 智文 氏(おれんじドア 代表)
若年性認知症当事者の立場から、「その人らしい暮らしや思いに寄り添う」ということ、人と人とのつながりの中で生きていくことの大切さについて、ご講演いただきます。

〈コーディネーター〉宮脇 文恵 氏(宇都宮短期大学 人間福祉学科 教授)



▲講師:丹野 智文 氏

手話通訳あり

どなたでも無料で
ご参加いただけます

午後 分科会

【分科会1】寄り添い 認めあい 自分らしさが輝くまちへ
【分科会2】みんなが主役!つながり 広がる まちづくり

【申込・問い合わせ先】
横浜市社会福祉協議会
企画部
☎045-201-2090

申し込みは
こちらから



賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和6年4月13日～7月22日 新規受付・継続受付分

個人

- 相澤 直樹 様
- 中野 敏捷 様
- 中野 誠 様
- 佐藤 邦彦 様
- 星崎 清美 様
- 高橋 昌三郎 様

団体

- 特別養護老人ホーム 今宿ホーム 様
- ユークス総合建築 株式会社 様
- NPO法人 そうの歌 様
- 特定非営利活動法人 日本防災環境 様
- 有限会社 アーバンハウス 様
- 株式会社 エースプラン 様
- 株式会社 cielo azul 様

- モービルオート 株式会社 様
- 丸五運輸 株式会社 様
- 横浜商工会議所 様
- 公益財団法人 産業雇用安定センター 神奈川事務所 様
- 株式会社 江戸清 様
- 大黒倉庫 株式会社 様
- 株式会社 アースアンドウォーター 様
- 三澤太雅法律事務所 様

【問い合わせ先】
横浜市社会福祉協議会 総務部
☎045-201-2096

賛助会員・
賛助会費の
ご案内



みんなのきもち ありがとう

みなさまからの寄付は、地域の助けあい、
支えあい活動のため、有効に活用させていただきます。



泉の会 Kokua

Kokua(コクア)は、知的障がい児者の親による障がい理解啓発グループです。障がいのある人もない人も、人はみんな違うけど、感じる気持ちは「みんないっしょ」をテーマに、疑似体験やオリジナルビデオ、紙芝居で障がい理解の出前講座を行っています。

災害時の対応や多様性の理解を深めようと、地域や学校からの依頼、イベントへの参加など、出前講座のニーズが年々高まっています。



▲お揃いのユニフォームを着て
メンバー紹介

お礼の
メッセージ

ふれあい助成金を活用して、Kokuaで行っている小学生向けの福祉講座を周知するためのダイジェストビデオを作成し、たくさんの小学校で授業を実施することができました。いろいろな子どもたちが一緒に過ごす学齢期に、障がいや多様性の理解を深めることは、人への思いやりを育み、共生社会の意識につながるのだと信じて、活動を続けていきます。支えていただき、ありがとうございます。



▲出前講座「みんないっしょ」にて

横浜市ボランティアセンターでは、寄付のご相談をお受けしています
☎045-201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和6年4月1日～6月30日受付分(受入順)

金銭寄付者

- 〈個人〉
- 富士松 延治太夫 様
 - よこはまシニアボランティアポイント登録者 様
- 〈企業・団体〉
- 横浜信用金庫 様 (4件)
 - MAC&BPミッドランド税理士法人 様
 - 横浜市社会福祉センター利用者一同 様
 - 日本ハムマーケティング 株式会社
 - 南関東販売部横浜営業所 様
 - 汲沢電設 有限会社 様 (3件)
 - メモリーズ 株式会社 様
 - 株式会社 創健社 様
 - 横浜農業協同組合 様
 - 宮沢の環境を守る会 様

- ふれあいチャリティバザー実行委員会 様
 - KDDI 株式会社 南関東総支社 様
- 〈匿名寄付〉(22件)

物品寄付者

- 〈企業・団体〉
- 株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 様 (2件)
 - 株式会社 オーバーシーズ 様
 - 宮内建設 株式会社 様
 - 三信通商 株式会社 様
 - 株式会社 ロフト 様
 - 一般社団法人 東日本音楽祭実行委員会 様
 - 横浜開港協議会 様
 - 公益財団法人 神奈川芸術文化財団 様
- 〈匿名寄付〉(2件)

ヨコハマ寄付本寄付者

- 〈個人〉
- 大道 恒 様・美代子 様
- 〈企業・団体〉
- 横浜市北山田地区センター 様 (3件)
 - 横浜市社会福祉協議会運営施設等)
 - 横浜市社会福祉センター利用者一同 様 (2件)
 - 横浜市旭区社会福祉協議会 様 (2件)
 - 横浜市神奈川区社会福祉協議会 様
 - 横浜市東永谷地域ケアプラザ 様
 - 老人福祉センター横浜ユートピア青葉 横浜もえぎ野地域ケアプラザ 様
- 〈匿名寄付〉(39件)



ヨコ寄付

制度では対応できない課題の解決を目指します
ホームページ▶



寄付と遺贈の
相談窓口

ホームページ▶



令和6年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から補償(*)		
地震・噴火・津波による死傷	×	○		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険
ホームページ)

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

みんなの声



前号の感想

障害理解の講座や研修の内容がとても具体的でいいなと思いました。わからないことが多い分野なのでもっと広がっていくといいです。
(鶴見区 めめちゃん)

私の娘も障害者です。時々、駅前の掃除に参加しています。本人も社会貢献できていると思っています、とても誇らしげにやっています。
(港南区 みーま)

表紙の写真にあるように関係者の方々の笑顔を拝見して、ますます福祉の現場を理解することが大切だとわかりました。ずっと応援しています。
(瀬谷区 かっちゃん)

仕事を通して障害のある人たちが地域の中でいい繋がりができていることは理想的だと想います。そういう繋がりから、普段の生活でのコミュニケーション、災害時の助け合いもスムーズになるのだと想います。
(旭区 M.K)

福よこクイズ ご応募・ご感想お待ちしております!

横浜市内には地域ケアプラザが146か所(令和6年7月現在)あり、身近な福祉・保健の拠点としてさまざまな取組を行っています。各施設には生活支援〇〇〇〇〇〇〇〇や地域活動交流〇〇〇〇〇〇〇〇が配置されています。(どちらも同じ言葉が入ります・カタカナ8文字)

今号のプレゼント

お役立ち台所グッズ (エコ・ラップ & アクリルタワシ)

台所で活躍する「エコ・ラップ」と「アクリルタワシ」のセットです。エコ・ラップ(20cm×20cm)は、ちょっとした食品の保存にも活躍し、繰り返し使えます。洗剤を使わずに使えるアクリルタワシは、食器洗いだけでなく、お風呂掃除などにも使えます。

エコ・ラップ



就労継続支援B型事業所
チェリーブロッサム
(青葉区すすき野)

アクリルタワシ



磯子区障害者
地域活動ホーム
(磯子区磯子)

デザイン・色はおまかせください

「みんなの声」に掲載された方を含み、抽選で**15名**の方に**プレゼント**を差し上げます。
締切: 令和6年10月31日(木) 必着

応募方法 はがき・FAX・Eメール・応募フォームにて、次の項目をご記入のうえお送りください。

項目

- 1) 記事の感想・ご意見
- 2) 福祉よこはまの入手方法
- 3) 福祉よこはまの入手回数
- 4) 「みんなの声」次号掲載時の氏名の掲載可否(匿名希望はイニシャルを記載)
- 5) クイズの答え
- 6) 氏名(ふりがな)
- 7) 年齢
- 8) 電話番号
- 9) 郵便番号・住所

ご感想のみの方も
おまちしています。

応募先

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
横浜市社協「福よこクイズ」係
FAX 045-201-8385
Eメール
fukuyoko@yokohamashakyo.jp
「福よこクイズ」応募フォーム▶




【個人情報取扱】

※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考のみに利用させていただきます。

前号211号「福よこクイズ」の答えは、「わーくる」でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

編集後記

(特集)中里北部地区は昔ながらの田園風景が残る地域で、取材に訪れた7月は田んぼに青々とした稲が立派に育っていました。我が家でもバケツで稲を育てていますが、思わず見入ってしまいました。黄金色に変わる稲を見に、また訪ねてみたくなる美しい場所でした。(福祉の仕事)つばやきを拾う、こうだったらいいを形にできるのがコーディネーターの仕事と笑顔で話してくれたお2人。とても素敵でした。中学校区に1か所程度ある地域ケアプラザ。ぜひ、お近くのケアプラザに足を運んでみてください。素敵な出会いがあるかもしれません。


「福祉よこはま」は、共同募金配分金の一部を活用して発行しています。


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
横浜市社協は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

〈発行〉
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090 FAX:045-201-8385
Eメール: fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL: https://www.yokohamashakyo.jp

〈デザイン〉
株式会社 オールスタッフ
次号▶No.213
令和6年12月発行予定